

とんからり

とんとんからりー

とんからりー

地域

文化

遊び

芸能

人間

作・構成演出／中島 研 美術・衣裳／小峯三奈 協力／有賀二郎 音楽監修／曲尾友克
 民俗考証／笠井玲子 制作／浅野井優子 協力／美山町獅子舞保存会・宮下囃子保存会

切り絵／川島 夏

絵／ken



わらべ唄
 ひとつ があったら
 ふひとつ があったら ふたつ ふくしゅそう
 みつ みかんのき よつ ようじのき
 いつ いちようのき むつ むくれんじ
 ななつ なんてんのき やつ やえぎくら
 ここのつ こうめのき とうて とこうてん



ふくしゅそう
 つのほらついのほら やはらてつ
 ちやつばにさられて すつぽんぼん
 ねけたか どんどこしよ
 たわらのねずみが こめくつてちゅう
 あわくつてちゅう
 ちゅうちゅうちゅう

遊びたいって「とんからり」

劇団風の子の舞台はいつも遊び心でいっぱいです。この「とんからり」は、とりわけ温かい笑いのある、遊び心満載の舞台です。
 八王子に伝わる郷土芸能を取り入れたということですが、この舞台には昔の縁日を再現したように、様々な屋台が繰り出されます。笛や太鼓や三味線のにぎやかな演奏。屋台を引いた物売りたちのユーモア溢れるセリフにイキなしくさ。こま回しやざる回しの場面は、まるで通りで大道芸人を囲んで見ているような雰囲気です。観客席では「失敗しませんが！」と息をのむ静けさ。そしてその後の「ふくしゅ」という安堵のため息と感嘆の声。舞台と客席が一体感で包まれます。「足踊り」は妖しく不思議な足の芸で、まるで見世物小屋をのぞいたようなドキドキ感があります。最後の芝居に登場する、ざると手筈を連ねて作った龍の造形は、素朴ながらも圧巻です。
 土がアスファルトに変わり、広っぱや露地が消えてしまった今でも、子どもたちはこんな楽しくにぎやかな遊びの世界が大好きなのです。ドキドキハラハラしながらもいつのまにか引き込まれてしまふ『遊び』の舞台。
 平安時代の昔から「遊びをせんとや生まれけん」と歌われてきたように、子どもたちの成長にとって、遊ぶことは「飯を食べることと同じくらい大切なこと。遊びを通して、イメージを膨らませ、豊かな想像力を身につけて、創造力へと高めていくのです。この「とんからり」はそんな遊びの原点を見せてくれる得がたい舞台だと思います。
 (元小学校・短期大学教員 吉川由香子)

【劇団風の子の活動】

劇団風の子は、まだ戦後の焼野原が残る東京世田谷で、子ども会や子ども文庫の活動をしていた多田徹を中心とする若者たちによって、1950年に始められました。

「日本の未来を考えることは、これからの日本の子どものことを考えること」を劇団の理念とし、以来、約70年、「子どものいるとどこへでも」を合言葉に、北海道から沖縄まで、全国で公演を続けています。

また、1970年代からは、ドイツ、カナダ、中近東、東南アジア、アフリカ、アメリカ、ロシア、韓国、中国など海外での公演も積極的に行なってきており、国際的な文化交流の輪も年々ひろがってきています。

劇団風の子は、これからも子どもの目の高さから新しい創造に挑み続け、視野を世界に広げ、子どもの育つ地域に目を向け、先生方や子どもをとりまくおとなたちと連携し、子どもたちの心の中にとびこんでいきたいと思っています。

〈主な受賞作品〉

- 「小さい劇場」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「世界をまわるトランク劇場」児童福祉文化賞
- 「宝のつるはし」都児童演劇祭優秀賞・児童福祉文化奨励賞
- 「チワンの星」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「突然の陽ざし」都優秀児童演劇選定優秀賞・文化庁優秀舞台芸術奨励公演
- 「風の子バザール」都優秀児童演劇選定優秀賞・中央児童福祉審議会特別推薦
- 「カレドニア号出帆す」都優秀児童演劇選定優秀賞・NHK脚本賞
- 「うそこほんこ」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「お祭りどんぶり」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「ぼたちの南十字星」都優秀児童演劇選定優秀賞・中央児童福祉審議会特別推薦
- 「ギャガヤとムツツリのたんじょうび」中央児童福祉審議会特別推薦
- 「おれがあいつであいつがおれで」都優秀児童演劇選定優秀賞
- 「おはなしちんどん」社会保障審議会特別推薦・児童福祉文化賞推薦
- 「マンナム」社会保障審議会特別推薦・児童福祉文化賞推薦

